

84 内水面及びさけ・ます等栽培対象資源対策事業

【令和7年度予算概算決定額 1,348（1,436）百万円】

＜対策のポイント＞

持続可能な内水面漁業・養殖業の確保のために、地域の人材と連携して実施する内水面漁場の有効かつ効果的な活用、カワウ・外来魚等の食害防止活動、ウナギ等の内水面資源の回復、ウナギ人工種苗の安定供給の実現等を推進します。また、効果的な栽培漁業の推進に向け、環境変化に対応した増殖手法の改良等の取組とともに、さけ・ますの地域全体の回帰率の向上を目指した広域連携体制を構築するための取組を支援します。

＜事業目標＞

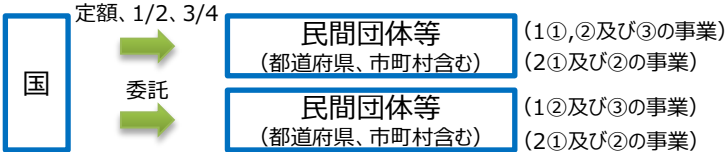
- 内水面漁業・養殖業活性化総合対策事業：内水面漁業・養殖業生産量の維持（57,162t〔令和8年度まで〕）
- さけ・ます等栽培対象資源対策事業：漁業生産量の増加（331万t〔平成30年度〕→ 444万t〔令和12年度〕）

＜事業の内容＞

- 1. 内水面漁業・養殖業活性化総合対策事業 798（825）百万円**
- ① 内水面漁業者等が行う、地域の人材と連携した効率的な漁場管理の導入の取組等を支援します。
 - ② カワウ・外来魚等の食害防止活動を支援するとともに、先端技術等を活用した低コスト・効率的なカワウ被害防止技術や外来魚の抑制管理技術を開発・実証します。
 - ③ 民間団体等による資源管理の取組を支援するとともに、ウナギ人工種苗の大量生産システムの実用化、資源回復に寄与する親ウナギの育成・放流手法の検討等を実施し、持続可能な内水面漁業・養殖業を可能とする手法を開発します。

- 2. さけ・ます等栽培対象資源対策事業 551（611）百万円**
- ① 環境変化に対応した増殖手法の改良や、都道府県間の連携体制構築、及び広域種の資源造成効果の検証等の取組を支援します。また、漁業者からのニーズの高い新規栽培対象種の種苗生産・放流技術の開発や資源評価の精度向上に資する標識応用技術の開発を行います。
 - ② 放流種苗の大型化を目指したふ化放流の広域連携体制の構築や河川間の連携により地域全体の放流効果を最大化するための取組を支援します。また、放流後の河川や沿岸での減耗軽減に有効と考えられる大型種苗の飼育技術開発等を行います。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

1-① みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業

ICT遊漁券システムから得られたデータを活用した釣り場管理

地域と連携した釣り場作り

1-② 内水面水産資源被害対策事業

カワウの駆除活動

外来魚駆除技術開発・効果実証

1-③ ウナギ等資源回復推進事業

親ウナギの育成・放流手法の検討

ウナギ人工種苗大量生産システムの実用化

＜広域種の資源造成＞

〔現状〕

環境変化に対応した手法の改良

都道府県間の連携

〔効果的な資源造成〕

＜さけ・ます類の回帰率向上＞

- ・放流種苗の大型化を目指した広域連携体制の構築
- ・河川間の連携による放流効果の最大化

回復・安定供給の資源の實現

資源造成・回復

【お問い合わせ先】（1の事業）水産庁栽培養殖課（03-3502-8489）
研究指導課（03-3502-0358）※
※ ウナギ人工種苗の大量生産システムの実用化のみ
栽培養殖課（03-6744-2385）
（2の事業）